

自然とともに 生きている。

高知県の西南に位置した

山間の三原村。

東京から時間的距離が最も

遠いともいわれている。

確かに遠くて、不便だけれど

村の住民たちは、

人と人との繋がりを大切にし、

自然に逆らわず、

旬の食材を手間ひまかけて、

昔ながらの「食」の文化や

日常の営みなどを

守って暮らしている。

以前、どこにでもあった

日本の原風景がここにある。

元気いっぱい
三原村



一般社団法人 三原村集落活動センターやまびこ
活／動／報／告

三原村は高知県の西部に位置し、標高 120m の高原地帯の山村です。気候は温暖で、周囲を 450m～850m の山脈に囲まれ、隣接する四万十市、宿毛市、土佐清水市、大月町の中心にあります。人口は 1,498 人（令和 2 年 1 月 1 日）、面積は 85.37K m²、ほとんどは山林で、集落及び耕地は下ノ加江川とその支流に沿って散在しています。古くは三原郷と呼ばれ、明治 22 年の町村制施行により「三原村」となり、現在は 14 集落によって構成されています。

（一社）三原村集落活動センターやまびこ

村民が主体となって、それぞれの地域の課題やニーズに応じて、生活、福祉、産業といった様々な活動に総合的に取り組む仕組みです。

三原村では、高齢化の進行や人口の減少に伴う地域活動の担い手不足、買い物や移動手段といった生活面での不安、農林業を担う人材の不足など、さまざまな課題に直面しています。その一方で、村民は集落への「愛着」や「誇り」を感じながら「今後も村に住み続けたい」という強い想いを抱いています。その想いを実現するために、地域が抱える課題を解決する手段として、「集落活動センターを核とした三原村の仕組みづくり」に取り組んでいます。

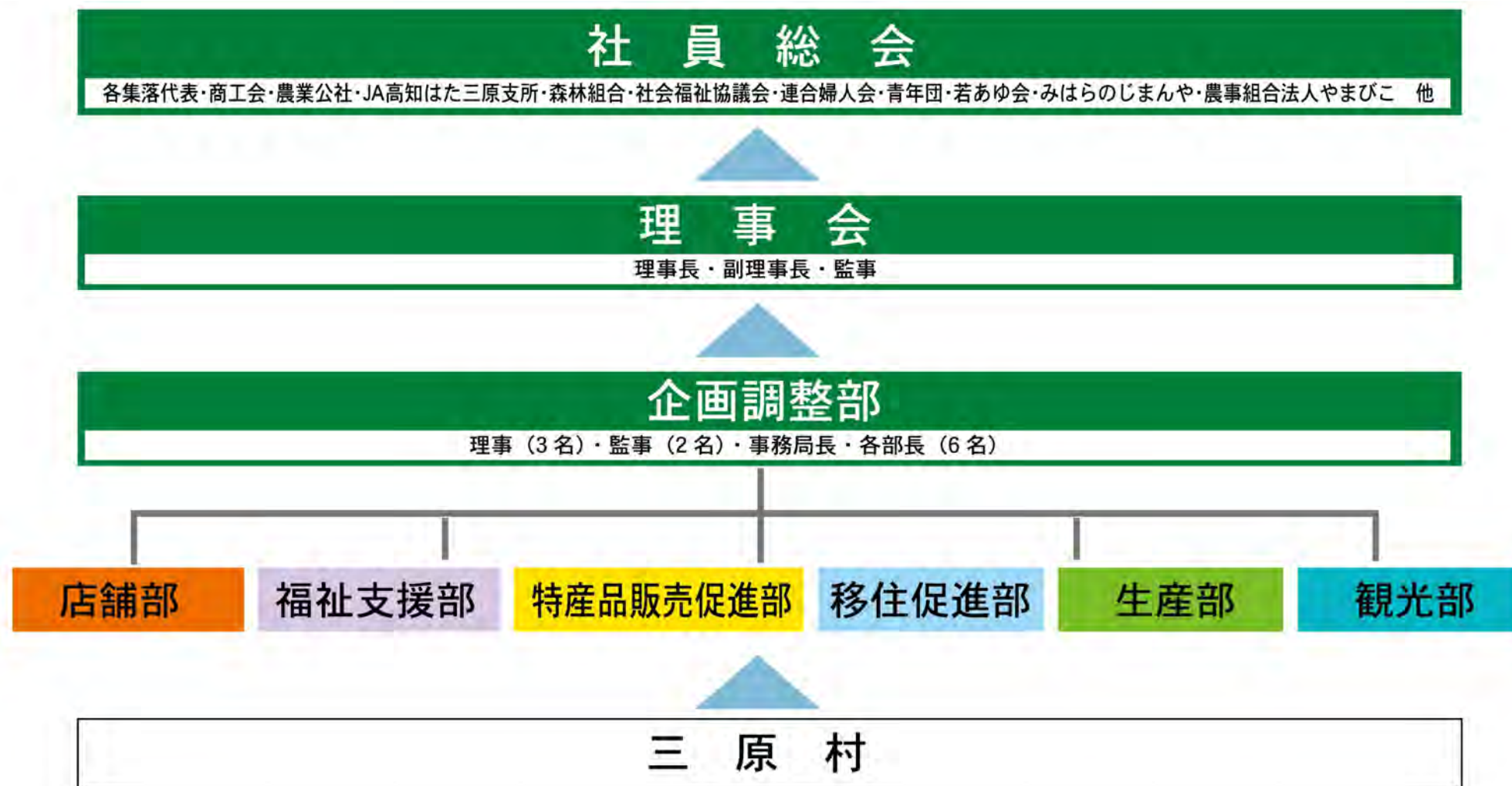


目的 1. 安心して生活できる村 2. 生産活動を継続し、農村維持ができる村

役割 1. 「三原村に住んで良かったね」という目的を達成するための機能する仕組みづくり

「安心して生活できる村」という目的に向かい、官民それぞれの立場の垣根を超えた発想で取り組むシステムづくり。

■組織の概要 一般社団法人 三原村集落活動センターやまびこ



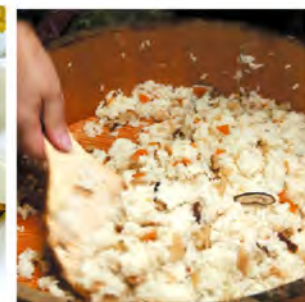
店舗部

やまびこカフェ

平成 28 年 4 月 9 日オープン



田舎料理レストラン



三原村の味



やまびこ



毎週土曜日は『ピッツアの日』

生地は米粉、具材は村内の季節の野菜を使用



村のべっぴんさんが、
四季折々の地元の食材を使った
日替わり定食メニューや
バイキングでおもてなし！

おかみさんグループが交代で毎日営業！(月～土) 来店客数(平成30年度)約12,500人



村外からも多数ご来店
いただいています！



みはらのじまんや

平成 22 年に村内で唯一の食料品店が廃業。翌年、買い物弱者対策として「三原村拠点ビジネス推進協議会」が主体となって店舗「みはらのじまんや」を開店。日用品、生鮮食品、野菜、お惣菜などの販売所として機能している。今では、なくてはならない買い物拠点となっている。平成 28 年 4 月、「やまびこカフェ」のオープンで、相乗効果となり来店客並びに売り上げ増となっている。

福祉支援部

- 文化財の伝承事業
- 男女ふれ合いイベント
- 地域のイベント支援
- 防災教室
- 清掃活動
- 楽しみのふれ合い活動
(卓球大会・カラオケ大会 他)



総社祭 (65年ぶりの復活)



清掃活動



防災教室



卓球大会



「スポーツ婚活」

- ほたるまつり
- あじさい祭り
- ヒメノボタン祭り その他



独身男女の「ときめきパーティー」

■コインランドリー運営



高齢者に対する生活サポート支援の一貫としてコインランドリーを運営

(※先々、宅配サービスも視野に入れる)

特産品販売促進部 村内の活動グループと連携

- 村の特産品販売 [どぶろく、土佐硯、トマト、ユズ製品 生きくらげ など]
- 昔ながらの「食」の文化を引き継いだ商品の掘り起こし
(一例：みはら米・山菜・きのこ類 その他)
- 手作りこんにやく商品化



どぶろく



【つるつとした食感！絶品の生芋こんにやく】

芋の栽培から3年。手間ひまかけて作る伝統製法のさしみこんにやく



ヘルシーで安心安全の本物の味



ゆず製品



ブランド米「水源のしずく」

イベント販売



高知市「ひろめ市場」



大阪「新梅田食道街」

村内のイベントに出店 お巻き・五目寿司・赤飯・しば餅・手作りこんにゃく・お漬物など田舎料理を販売！



移住促進部

■2014年度に村内の空き家調査

(空き家/80棟 賃貸可能家屋/17棟)

村や農業公社と連携し移住促進を図る。(令和2年1月現在:61名)

住宅は、村実施事業(空き家再生事業、移住者住宅改修補助事業)にて整備

移住者交流会

《ユズ収穫体験、しめ縄作り体験、カマドご飯、お餅つき体験など》

移住者には村の風習や文化について学んでいただき、また村の住民たちには、村外からの新しい風が活性化となる。

